

## 1、嵐山町ごみ処理の現状と埼玉中部資源組合でのごみ処理の見直し

(1)嵐山町、および小川町・滑川町・ときがわ町・東秩父村・川島町・吉見町・桶川市・東松山市の燃えるゴミ、ビンカン・プラスチック等の現状の資源化率、一人当たりのごみ量の22年度、26年度の実績値、目標値、目標値達成の可否についての評価を聞く。

(2)埼玉中部資源循環組合の財政計画は。

平成26年12月10日の同組合循環型社会形成推進計画には、発生抑制・再使用の推進に関する施策の一つに平成27年から32年までに有料化の検討をすることになっている。収集運搬費をふくめ、嵐山町においても小川地区衛生組合構成自治体においても、負担が高額になる。将来、社会保障サービスの負担増・サービスの低下は確実である。町民負担軽減を考慮し、埼玉中部資源循環組合でのごみ処理の考え方を見直し、里山資源のバイオガス化・生ごみの資源化・廃油のBDF化など小川地区衛生組合管内での有効なごみ再資源化を考え、新たなごみ処理施設の構築を考える時期にきている。循環型社会形成推進交付金は人口5万人以上で3分の1補助、ごみ発電を行う場合2分の1補助である。埼玉中部資源循環組合でのごみ処理ありきで進んでいるため、小川地区衛生組合管内での施設整備・PFI方式、DBO方式等の長期民間委託についての調査はされていない。将来の財政負担の増大を抑制するために再度、調査をすることを提言する。見直しを求める。

## 2,公共用水域の水質と下水道の接続

(1) 町内の河川に通じる生活排水の水質検査において、大幅に基準値をオーバーしている地点がある。推測される理由を聞く

(2) 生活排水等についての苦情・要望の有無を聞く

## 3,赤ちゃん学校応援団の設置

「赤ちゃん先生」というNPO活動がある。これは、赤ちゃんとママが学校で子どもたちと触れ合う企画を実行している。

嵐山町では、子どもが赤ちゃんに触れ合い学ぶことを、小中学生や高校生・若ママたちと一緒に企画して「赤ちゃん学校応援団」を各学校で1年に1度程度実施し、若い人と子育て中の若い両親が生まれたばかりの人の成長の学習と企画力を醸成していく活動を推進していくことを提案する

## 4,災害時の町職員・非常勤職員・民間委託事業従事者のあり方

先日の大雪時、学校給食が調理員が集まらないという理由で学校給食がつくれず、休校にな

ったと聞く。

現状では、日常的に嵐山町事業に携わる人で町外の人比率は。

職員・非常勤職員・日常業務の民間委託事業に従事する人について聞く。

災害時、嵐山町の緊急事態に対応できる人はどの程度か。機能するための方策は。

給食センターは、防災の拠点として位置付けられているが、現実に災害時機能する方策について聞く

#### 5,小中学生の学力向上の具体的方法

&#9332; 第5次総合振興計画改定案において学力向上が記載されている。

嵐山町小中学生の学力の特徴についての把握を聞く。

&#9333; 2020年大学入試改革に対応するのは現中学1年生である。子どもの学力を高めることを政策として掲げる以上、具体的にどのように進めるのか聞く。

&#9334; 考える力をつける・議論をまとめる力をつける・見通す力をつくといった能力をどのようにつけていくか、予算措置を含め聞く。